

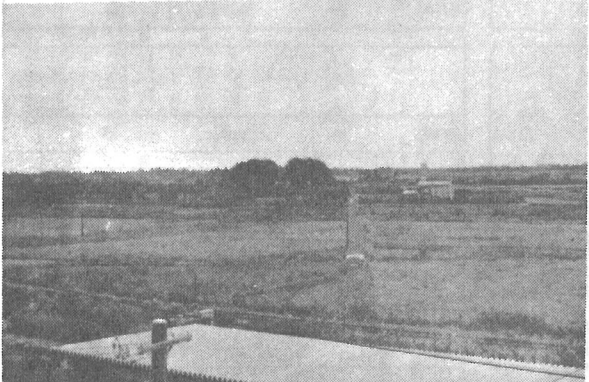
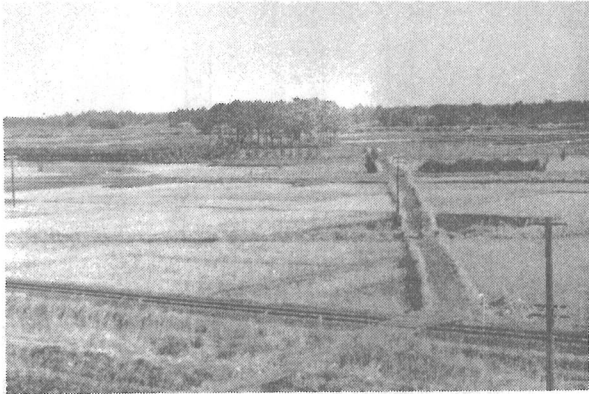
# 十年一昔

(その三十二)

## 役場下仲町踏切界限

給食センター 小沢所長寄稿

栗山方面の人達が役場へ出かけるには、隔離病舎の前から東町通学道路を横切って田圃路を役場下の踏切りへ抜ける路を利用していましたが、この踏切りは仲町踏切りと呼んでいました。踏切りを渡ると道路は役場の横から郵便局と映画館の間を抜けて国道を横断すると中学校前から坂田方面へも通じていました。又



◎写真 上は昭和36年撮影のもので、下は今年の8月同じ場所から撮影したのですが10年の歳月が忍ばれます。

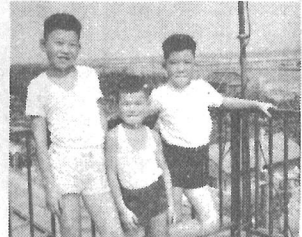
逆に栗山を経て北清水方面への近路にもなっていました。それに鉄道下へ耕田を持つ本町上町方面の農家の人達には鉄道を渡ることのできる数すくない道路でもありません。道路の割には重要な道路だったので、従って役場下の仲町踏切りという大勢の人から親しまれ又利用されていました。踏切りを役

場の方へ渡ると木橋が架り、その下は線路沿に約一メートル巾の流れになっていて春先等は流れと線路の間の堤にすくしやすかんぼが可愛い芽を吹き出していました。そして反対側の役場寄りの堤は、人が通れる程の中になっていて若い杉の木が一列に植えられていました。そして根元にはれんげ等の若草が繁茂して

ら、摘草、魚採り、虫狩り、いなご狩りと四季を通じて楽しみの多い場所でした。それだけこの踏切りを知っている人には懐かしい思い出を残しているのです。ところが、その踏切りが廃止されるといふことになったのですからこれを利用していた人達は驚きもしましたし又反対もしました。当時のことについて或る人は、

「この踏切の歴史は随分古いものです。真中を流れている用水路は私達の子供の頃は泥深川と呼んでいました。上流の方は底が泥深くてぶすぶすと足がもぐってしまいう位です。その辺に遊びに行く時は、太い竹の棒を持って行けば、若し足を取られたら棒に跨がって沈むのを防げ」と親達から言われたものです。その頃鳥喰沼はまだまだ広く、この踏切りの近くまで沼田でした。その沼田がどうやら耕地になるまでの農家の苦勞は大変でした。その苦心の未作り上げた耕地を踏切りが出来た時、これに通ずる道路用地として無償で寄附する等随分協力したものです。

そうした苦勞を積重ねた想い出の踏切りですから、急に廃止といわれてもなかなか納得できなかった訳です」と凡そ、そんな風に話していましたが、そうした問題の中にも上町踏切りを拡張することを条件として仲町踏切りは遂に廃止されました。山羊が遊んでいた堤や田圃も埋立てられ



〈善意の三兄弟〉

役場用地として倉庫等が建ち並び辺りの様相は一変してしまいました。今役場の二階から眺めますと点在する木立と踏切りの前後に伸びる農道に僅かの名残りを止めています。その農道も緑一色の草群にけされてしまう様に見えるのは気のせいでしょうか。

夏の生活  
黄金のカブト虫  
真夏の太陽が照りつける、

道端にひっそり建っていた碑、寺や社の庭先でふと見付けた碑、そこに刻まれた文字の一つ一つに、形に、幾年昔の私達の祖先の、故人の面影を忍び遺業を称えるのも無駄ではないと思います。二年八月月にわたり御付き合いをいただきました十年一昔は一応今月で終らせていただき来月からは、横芝町に点在する碑を探索して紹介したいと思います。よろしく御講評をおねがいたします。

八月十五日、役場住民課の窓口へ横芝町長宛に一通の封書が届けられました。係員が調べて見ると「夏休みにカブト虫を売って作ったお金です。少しホドムのおじいさん、おばあさんにかけて下さい」と書いてあり、それに現金二千円が添えてありました。この善行の主は、南川岸部落に住む、野田三郎さんのお子さんと、上堺小学校六年生の敏勝君と四年生の茂則君、それに二年生の正彦君の三人の兄弟でした。兄弟は、夏休みを利用してカブト虫をとり売ったお金を、自分達の欲しい物を買わずに、施設の老人達のために貯えておいたのです。日頃恵まれない施設の人や不幸な子供達が忘れられがちな昨今、この三人の兄弟の善行こそ、何か社会福祉のあり方についての指針を示してくれたような気がいたします。私達はこの善意に感謝すると共に、お互い助け合い明るい横芝町を造ろうではありませんか。

八日市場の市内局番  
9月20日から3局誕生